

中小製造業における新たな競争力の次元

～金型産業に見る新たな競争力～

経営学部 事業創造学科 事業創造コース

○准教授 藤 川 健

キーワード

日本のものづくり，中小企業，基盤産業，金型産業，
経営戦略，技術経営，競争力

研究概要

私は、「中小製造企業がどのように経営を行っていけばよいのか」について研究を行っています。とりわけ、中小製造業の中でも、金型産業に強い関心を持っています。金型は、一国、一地域の技術水準を規定するマザーツールであるとも言われています。そのような金型産業において、私が精力的に取り組んでいるテーマは、「国内の金型産業は技術力が高いと言われているにもかかわらず、なぜ金型製造企業が儲からないのか」です。2000年以降、金型産業を国際的に比較する研究が盛んに行われてきました。そして、アジア諸国との比較から、日本の金型産業は高度な技術力を保持することが実証されてきました。ところが、今日の国内金型製造企業は、倒産、買収、合併などに直面し、苦境に立たされているものが多い状況です。

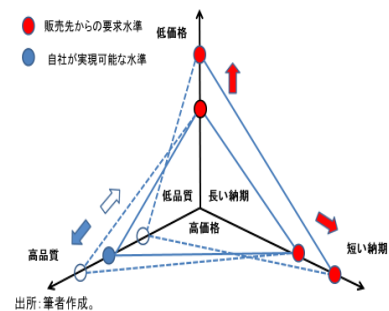
言い換えますと、依然として高い技術力を維持する金型産業とは対照的に、それを構成する金型製造企業がなぜ高い経営成果を上げることができないのでしょうか。上記の矛盾が如何なる理由から生じているのか、そして金型製造企業はどのようにこの苦境を乗り越えればよいのかを、取引先企業、金型製造企業間の競争というキーワードから考えています。

アピールポイント

これまでに企業の膨大な財務データを扱う帝国データバンクと共同研究を行うことや、金型の製造現場に赴いて経営者の方の生の声を伺うフィールドワークを精力的に実施してきました。そして、その研究成果を日本金型工業会などの各種業界団体や、『型技術』などの技術的な専門誌を通じて発表してきました。それらを踏まえて、直近で行った売上額上位の金型製造企業に対する調査では、競争力の次元が変化していることを明らかにしました。そのような競争力の変化をまとめたものが図になります。

従来の金型製造企業の競争力は、取引先企業のニーズに適合するため、金型の品質・コスト・納期の三軸で表現された三角錐の体積をどこまで大きく拡張することができるのかという改善能力が求められていました。しかしながら、今日の金型製造企業の競争力では、取引先企業のニーズに適合するため、金型の品質・コスト・納期の三軸で表現された三角錐の頂点を如何に素早く柔軟に編集することができるのかという対応能力が問われています。さらに、企業間における対応能力の差が、金型製造企業の経営成果の違いに密接に関わっていることを提示しました。

図 金型製造企業の競争力における焦点のシフト



出所：筆者作成。